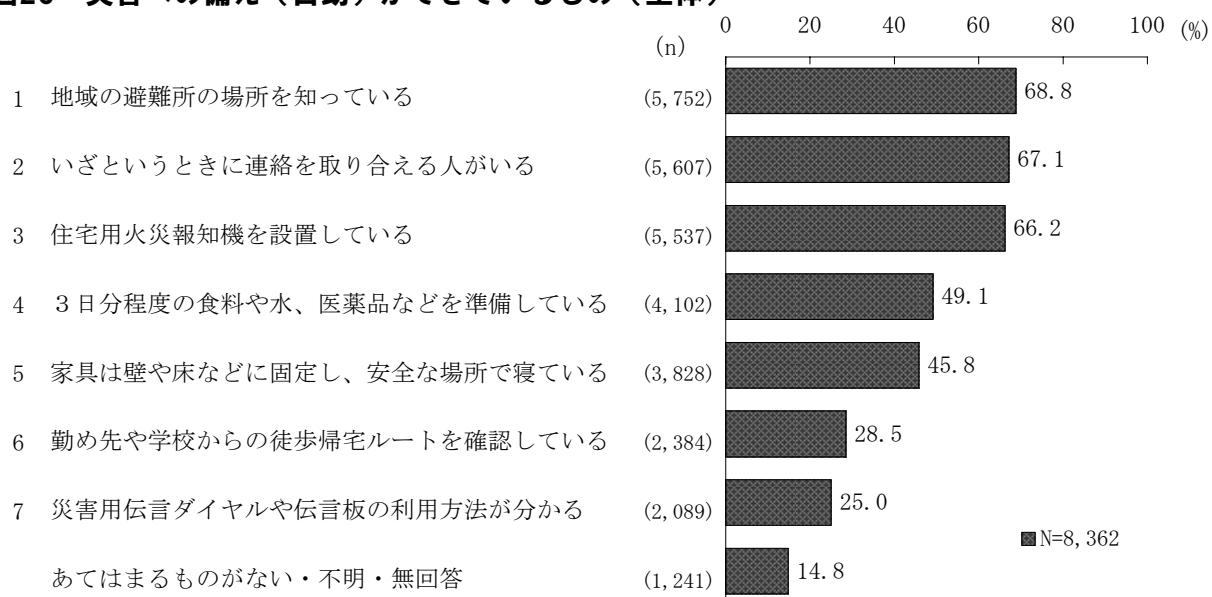


4 災害への備え（自助）ができているもの（選択式）

図25 災害への備え（自助）ができているもの（全体）

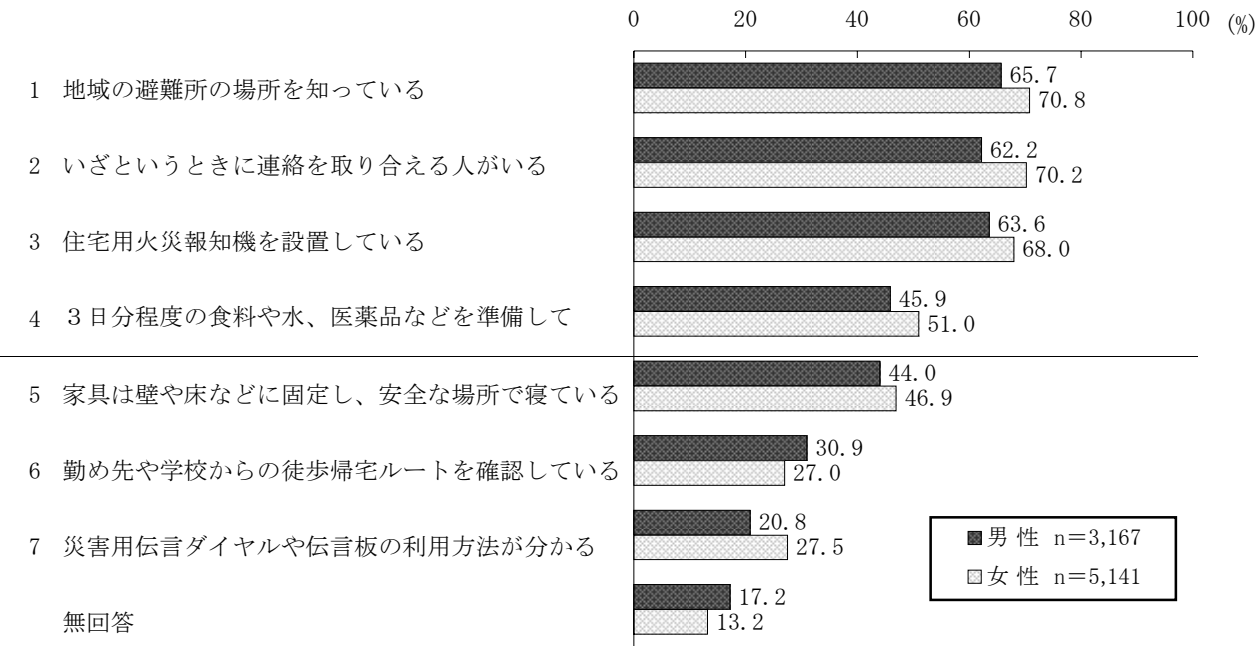


災害への日頃の備え（自助）ができているものを選んでもらいました。（複数回答）

「地域の避難所の場所を知っている」が68.8%と最も高い結果となり、ついで「いざというときに連絡を取り合える人がある」が67.1%、「住宅用火災報知機を設置している」が66.2%と60%台が続いています。

(1) 性別比較

図26 災害への備え（自助）ができているもの



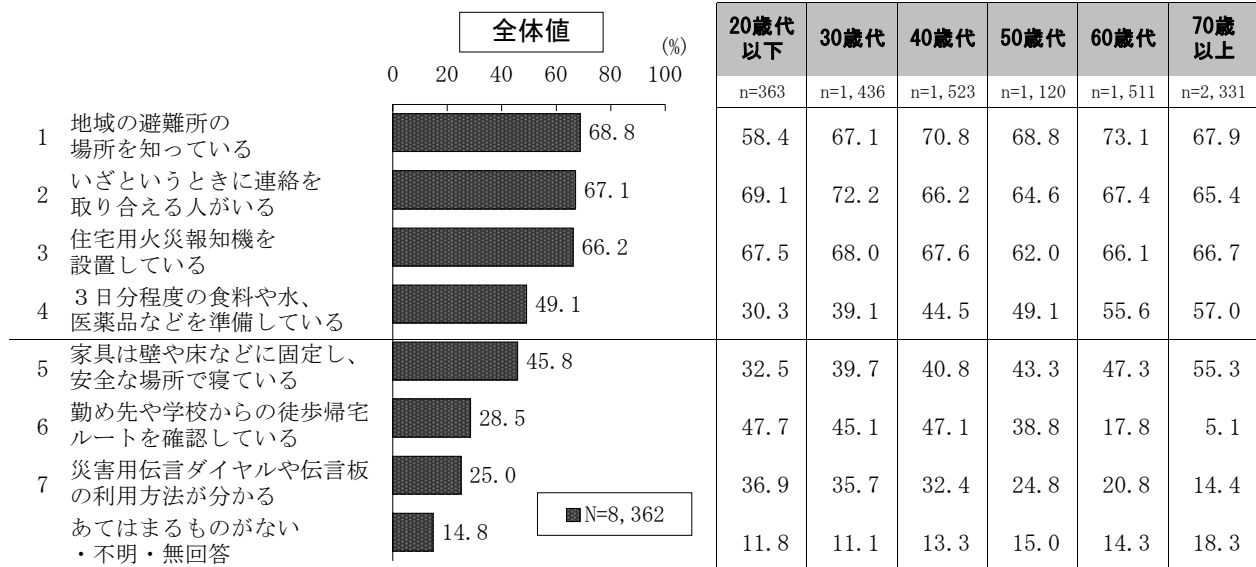
□性別上位3項目

	男性 (n=3,167)	女性 (n=5,141)
第1位	地域の避難所の場所を知っている (65.7%)	地域の避難所の場所を知っている (70.8%)
第2位	住宅用火災報知機を設置している (63.6%)	いざというときに連絡を取り合える人がある (70.2%)
第3位	いざというときに連絡を取り合える人がある (62.2%)	住宅用火災報知機を設置している (68.0%)

性別では、男女で順位に大きな差はみられないが、「勤め先や学校からの徒歩帰宅ルートを確認している」を除く各項目で、女性の方が男性より高い傾向がみられました。

(2) 年代別比較

図27 災害への備え（自助）ができているもの



□年代別上位3項目

	20歳代以下 (n=363)	30歳代 (n=1,436)	40歳代 (n=1,523)
第1位	いざというときに連絡を取り合える人がいる (69.1%)	いざというときに連絡を取り合える人がいる (72.2%)	地域の避難所の場所を知っている (70.8%)
第2位	住宅用火災報知機を設置している (67.5%)	住宅用火災報知機を設置している (68.0%)	住宅用火災報知機を設置している (67.6%)
第3位	地域の避難所の場所を知っている (58.4%)	地域の避難所の場所を知っている (67.1%)	いざというときに連絡を取り合える人がいる (66.2%)

	50歳代 (n=1,120)	60歳代 (n=1,511)	70歳以上 (n=2,331)
第1位	地域の避難所の場所を知っている (68.8%)	地域の避難所の場所を知っている (73.1%)	地域の避難所の場所を知っている (67.9%)
第2位	いざというときに連絡を取り合える人がいる (64.6%)	いざというときに連絡を取り合える人がいる (67.4%)	住宅用火災報知機を設置している (66.7%)
第3位	住宅用火災報知機を設置している (62.0%)	住宅用火災報知機を設置している (66.1%)	いざというときに連絡を取り合える人がいる (65.4%)

年代別では、「地域の避難所の場所を知っている」は20歳代以下の58.4%に対し、30歳代以上の年代で70%前後となっています。

上位項目の「いざというときに連絡を取り合える人がいる」や「住宅用火災報知機を設置している」は年代による大きな差はみられませんでした。

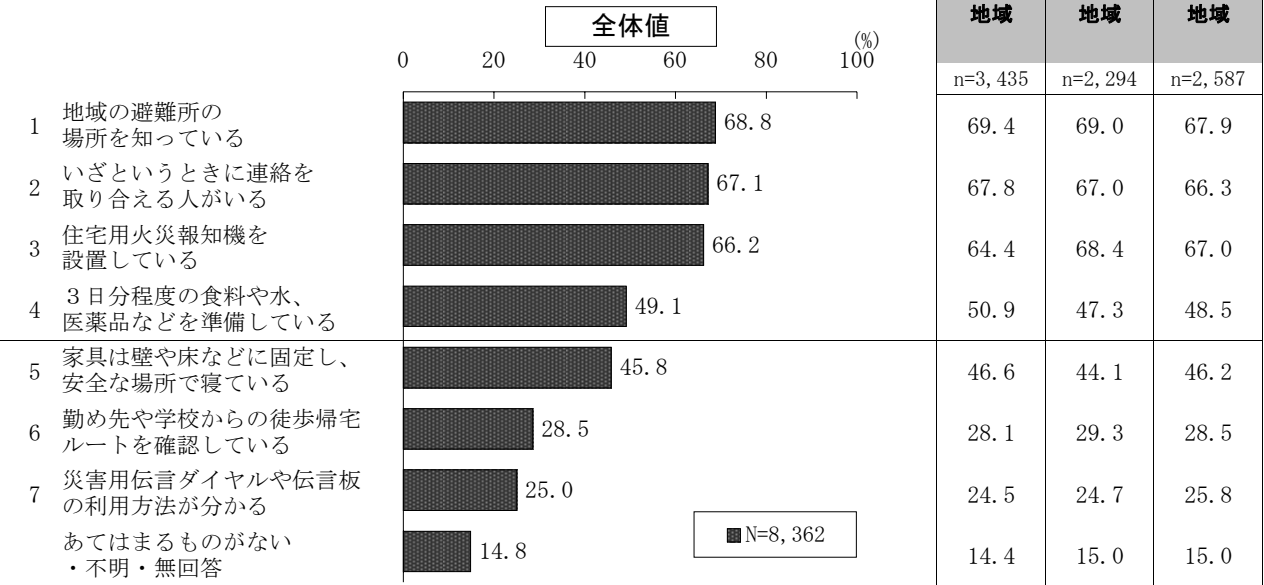
「3日分程度の食料や水、医薬品などを準備している」や「家具は壁や床などに固定し、安全な場所で寝ている」は年代が高くなるにつれ、回答の率が高くなる傾向がみられ、20歳代の3割強に対し、70歳以上では6割近くとなっています。

「勤め先や学校からの徒歩帰宅ルートを確認している」は20歳代以下、30歳代、40歳代で半数弱、50歳代で約4割の結果であり、通学・通勤の有無と関連していると思われます。

「災害用伝言ダイヤルや伝言板の利用方法が分かる」は年代が低いほど回答率が高い結果でした。

(3) 居住地域別比較

図28 災害への備え（自助）ができているもの



□居住地域別上位3項目

	吉祥寺地域 (n=3,435)	中央地域 (n=2,294)	武蔵境地域 (n=2,587)
第1位	地域の避難所の場所を知っている (69.4%)	地域の避難所の場所を知っている (69.0%)	地域の避難所の場所を知っている (67.9%)
第2位	いざというときに連絡を取り合える人がいる (67.8%)	住宅用火災報知機を設置している (68.4%)	住宅用火災報知機を設置している (67.0%)
第3位	住宅用火災報知機を設置している (64.4%)	いざというときに連絡を取り合える人がいる (67.0%)	いざというときに連絡を取り合える人がいる (66.3%)

居住地域別では、「住宅用火災報知機を設置している」が吉祥寺地域の64.4%と比べ、中央地域（68.4%）や武蔵境地域（67.0%）の方がやや高いものの、特に大きな差はみられませんでした。

(4) 各項目の属性別比較

図29 災害への備え（自助）ができているもの（性・年代別・居住地域別の内訳）

《1. 地域の避難所の場所を知っている》

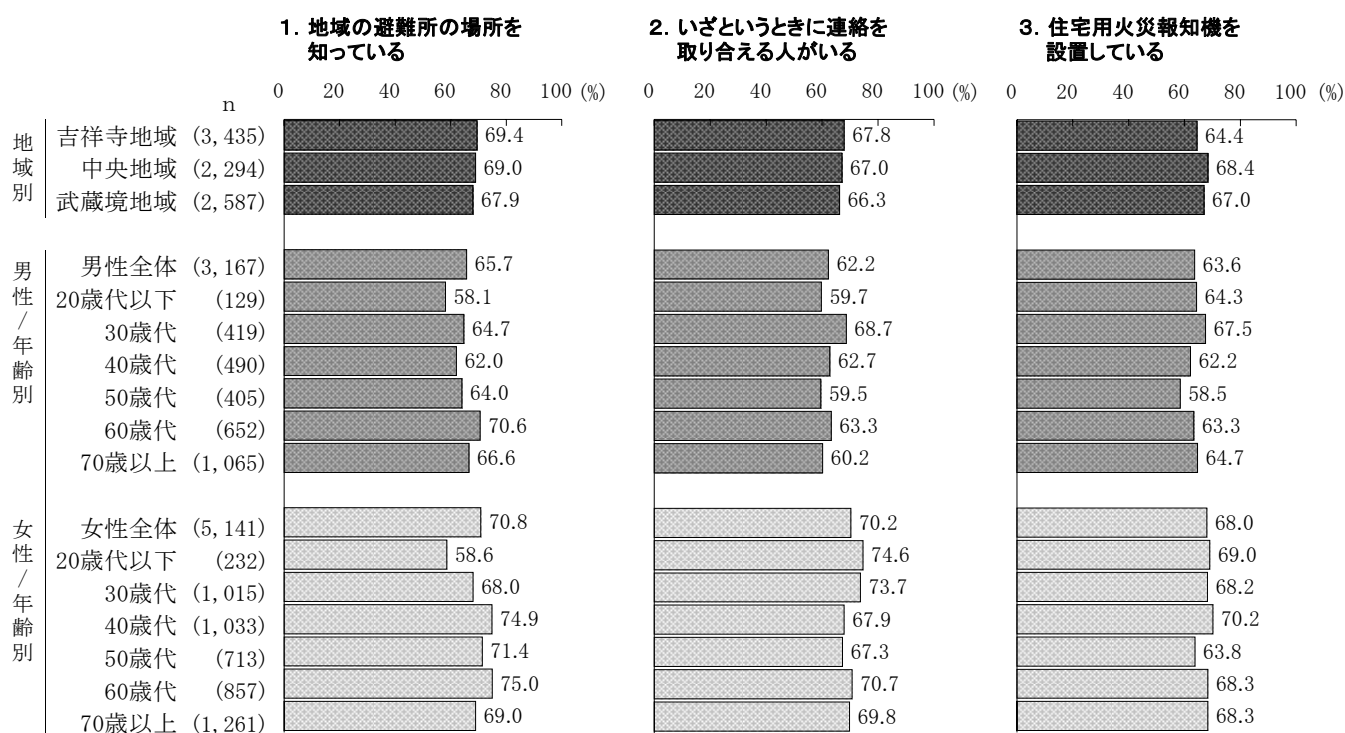
「地域の避難所の場所を知っている」では、男女ともに20歳代以下で60%を下回り、他の年代と比べやや低い傾向がみられました。

《2. いざというときに連絡を取り合える人がある》

「いざというときに連絡を取り合える人がある」では、居住地域・性・年代別による大きな差がみられませんでした。

《3. 住宅用火災報知機を設置している》

「住宅用火災報知機を設置している」では、吉祥寺地域に比べて、中央地域や武蔵境地域でやや高い傾向あるものの、大きな差はみられませんでした。性・年代では男女とも50歳代でやや低いものの、大きな差はみられませんでした。



《4. 3日分程度の食料や水、医薬品などを準備している》

「3日分程度の食料や水、医薬品などを準備している」では、男女ともに年代が高くなるほど回答の率が高くなる傾向がみられました。また、各年代とも男性より女性の方が高くなっています。

《5. 家具は壁や床などに固定し、安全な場所で寝ている》

「家具は壁や床などに固定し、安全な場所で寝ている」では、男女ともに年代が高くなるほど回答の率が高くなる傾向です。男女とも40歳代より高い年代で男性より女性の方が高くなっています。

《6. 勤め先や学校からの徒歩帰宅ルートを確認している》

「勤め先や学校からの徒歩帰宅ルートを確認している」では、男性30歳代が58.9%と最も高く、20歳以下から50歳代で50%前後と高くなっています。女性は20歳代以下から40歳代で40%前後と高くなっています。

《7. 災害用伝言ダイヤルや伝言板の利用方法が分かる》

「災害用伝言ダイヤルや伝言板の利用方法が分かる」では、男性では多少のばらつきはあるものの、男女ともに年代が低い方が回答の率が高い傾向がみられます。各年代で男性に比べ女性の方が高くなっています。

